

平成22年度 国立大学法人大阪教育大学 年度計画

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置

- 1 志願者・入学者に関する基礎資料の作成を継続し、平成21年度に実施した入試分析結果と併せて入試広報活動の効果の検証を行う。
- 2-1 全学組織である教務委員会等で、教職関連の専門科目を主として、将来教員となる学生が身につけるべき学習成果や到達目標の設定に着手する。
- 2-2 教養教育の見直しの検討結果に基づき、恒常的な検討組織を設置する。
- 2-3 新設する模擬授業教室の活用を始めるとともに電子ポートフォリオシステムの試行的運用を開始する。
- 2-4 ICTを活用した教育の在り方を含む情報メディア基盤に関する検討組織を設置する。
- 2-5 語学教育改善に必要となる基礎資料を収集するため、すでに導入済みのTOEFL-ITPに加え、発音・スピーキング能力を測定する新たな外部テストを導入する。
- 2-6 平成21年度に完成した4年間積み上げ方式の教育実習について検証し、課題の整理を行う。
- 2-7 複数開講科目について授業の到達目標の統一に向けた作業に着手する。
 - ・ また、GPA制度の導入などについて、各部局へのアンケートの集計結果を基に資料を収集する。
- 3 学校、企業等のインターンシップ制度導入に向けて、検討組織を設置する。
- 4-1 全学的な観点から、平成19年度改正の大学院カリキュラム検証のための組織を設置する。
- 4-2 夜間大学院の特別支援教育等を充実するために、実践学校教育専攻のカリキュラムの再編成に着手する。
- 4-3 長期履修学生制度や教育職員免許状取得プログラムの実施における問題点や改善点を整理し改善計画を策定する。
- 4-4 夜間開講の大学院教育の拡充のための検討組織を設置する。

(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

- 1 全学FD準備委員会を設置し、FD活動に関する運営、活動内容等に関する基本方針を策定する。
- 2 授業環境の改善を図るため、授業担当の原則的な方針を定める。
- 3 「京阪奈3教育大学連携推進協議会（仮称）」を設置し、教員養成教育や教養教育の充実方策に係る連携協力事業項目の整理を行う。

(3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

- 1-1 平成 22 年度から実施する新たな指導教員制度の定着を図るため、実施状況や支援内容について指導教員対象の調査を行う。
- 1-2 現行の転籍制度の問題点や課題を明確にし、転籍制度の検討に着手する。
- 1-3 電子ポートフォリオの導入、指導教員制度、キャリア教育の強化策と関連付けながら、学習相談システム開発に必要な課題を整理する。
- 1-4 学生の自発的な組織化を支援する方策について、現在実施している各種の顕彰制度や補助制度の更なる充実を図るべく、各大学の取組状況について調査する。
- 1-5 「京阪奈 3 教育大学連携推進協議会（仮称）」を設置し、学生合同セミナーや教員就職対策に係る連携協力事業項目の整理を行う。
- 1-6 本学卒業生によって組織される課外活動におけるOB会及びOG会の組織、活動状況並びに学生に対する支援状況について調査を行う。
- 2-1 特別な支援を要する学生のためのワーキンググループ等を組織し、他大学の実態把握及び支援状況について調査を行う。
- 2-2 全学組織である学生支援実施委員会において、経済的支援の充実に関する具体的方策の検討に着手する。

2 研究に関する目標を達成するための措置

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置

- 1-1 教職教育に関する組織的な研究を行うための組織整備に着手する。
- 1-2 学校リスクマネジメントに関するこれまでの事業の発展とその活用を図るとともに、その成果を基礎として、あらたな『学校危機に対する予防プログラム』の開発に着手する。
- 1-3 研究成果を網羅的に収集し、公開するためのガイドラインを策定する。

(2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置

- 1 主として教職に関わる授業の内容、方法等に関する外部の研究協力者の受入れ体制の整備に着手する。
- 2 紀要のレフェリー制の導入に向け、附属図書館運営委員会において、国内外の査読規程・基準等を調査する。

3 その他の目標を達成するための措置

(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための措置

- 1-1 現職教員に対して教育相談や教育実践の助言等の支援を行うため、インターネット等を活用したシステムの整備に着手する。
- 1-2 地元自治体等との連携のもと、地域活性化事業等におけるボランティア活動

の支援方策等について協議を開始する。

- 2 地域連携事業の拡大を図るため、関係する団体等と連携して本学における社会貢献の実態調査を行う。

(2) 国際化に関する目標を達成するための措置

- 1-1 英語による授業、並びに諸外国での語学研修・文化研修を含む授業の内容充実と正規科目化に必要な条件を調査・整理する。
- 1-2 日本語教育に関わる授業の導入に向けて、日本語を母語としない児童生徒の教育課題について調査分析する。
- 2-1 ダブルディグリー制度について、学内に検討プロジェクトを設置し、実施済みの大学の実態調査を行い、導入にあたっての検討課題等を整理する。
- 2-2 ・留学生向けのカリキュラムの在り方について検討を行う。
・留学希望者を対象とした英語による授業の単位化について検討するとともに、アジア諸語の授業の充実について課題の整理を行う。
- 3 カブール教育大学（アフガニスタン）との協定に基づき、教員を招聘し、短期研修を実施するとともに、発展途上国に対して JICA 資金による教育支援を実施する。
- 4 教職教育研究開発センターと国際センターにおいて、地域の日本語・識字教育や国際理解教育の促進のために必要な支援のあり方についての方策を検討する。

(3) 附属学校に関する目標を達成するための措置

- 1-1 ・学校安全の充実を図るため、附属学校園の校舎等の耐震・老朽度調査等をもとに、建物改修計画等の立案を行う。
・附属池田小学校がインターナショナルセーフスクール認証校として、学校安全に係る我が国の先駆的取組を行う。
- 1-2 栄養教諭2名を配置し、食育の環境を整えるとともに、児童生徒の健全な食生活の実現と豊かな人間形成のためのカリキュラムづくりに着手する。
- 2-1 これまでの附属学校園との教育実習合同会議を拡大し、八尾市・柏原市・東大阪市・大阪市・堺市等の教育委員会の担当者を加えた教育実習検討会議（仮称）を組織し、附属学校実習と公立学校における教育実習の効果や課題を整理する。
- 2-2 平成21年度に整備した大学・附属学校園連携推進委員会の下、各地区（天王寺、池田、平野）の共同研究協議会において大学と附属学校園の共同研究を推進する。
- 3-1 学長の下に附属学校園校長専任化検討プロジェクトを組織し、附属学校園の管理運営体制の整備計画を検討する。
- 3-2 附属学校正副校園長会議で指導教諭の配置等について検討を行い、役割分担

の明確化、選考基準及び就業規則等の整備を行う。

- 3-3 大学・附属学校園連携推進委員会において、附属学校園の教育支援方策を検討するため、附属学校園教育支援検討部会を設置する。

II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置

- 1 「国立大学法人等の組織及び業務全般の見直しについて」(平成21年6月5日付文部科学大臣決定)の内容を踏まえた検討を行う。
- 2 教職教育研究開発センターの教育総合センター(仮称)への改組に取り組む。
- 3-1 経営協議会における審議の更なる実質化を図るため、委員に対する情報提供を頻繁に行うとともに、表明された意見への反映状況を含む審議の概要をウェブページ等でわかりやすく公開していく。
- 3-2 理事の役割分担の見直しを行い、組織及び個人の評価を扱う評価室を運営機構室として新たに設置する。
- 3-3 専門性を要する部門への人材の雇用を柔軟に進めるための制度見直し及び人材の任用を行う。
- 3-4 バランスに考慮した新たな予算配分の仕組みを構築するため、民間的経営指標によりさまざまな角度から財務データを分析する。
- 4 監事との連携を強化するため、連絡会議を開催し、監査室の役割を整理する。
- 5 キャリア支援の専門性の向上並びにキャリア教育の充実のため、キャリアサポートデスクを改組し、キャリア支援センターを設置する。
- 6 費用対効果を重視した業務の効率化のため、業務量・人件費を分析する。

2 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置

- 1 京都教育大学及び奈良教育大学と共同で、管理経費の節減や合同事務研修の実施などの連携事業項目の整理を行う。

III 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置

- 1-1 科学研究費補助金などの競争的資金や外部資金の獲得に取り組む教員を拡大するため、支援策の策定に取り組む。
- 1-2 大型の競争的資金や外部資金などの獲得のため、戦略的な計画(アクションプラン)を策定し、アクションプランに基づくプロジェクトの予算的な学内支援を試行する。
- 1-3 現行公開講座の在り方を、収入の観点から検証する。

2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置

(1) 人件費の削減に関する目標を達成するための措置

- 1 平成18年度からの5年間に於いて、△5%以上の人件費削減を行う。

(2) 人件費以外の経費の削減に関する目標を達成するための措置

- 1 管理的経費に係る随意契約を検証し、競争原理を活用した契約方法の導入に向けた計画策定に取り組む。

3 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置

- 1 新たな収入獲得のため、大学資産の貸付対象やその方法の調査・検討を行う。

IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 評価の充実に関する目標を達成するための措置

- 1-1 組織及び個人に関する評価・検討組織を設置する。
- 1-2 個人評価の項目・評価方法等の改善を行う組織を設置する。

2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標を達成するための措置

- 1 情報セキュリティを含め、情報メディア基盤の構築に係る検討組織を設置する。
- 2-1 大学広報や入試広報などにおいて、学生の参画による活動を推進する。
- 2-2 ウェブページをリニューアルし、携帯端末対応コンテンツを充実するなど利用者の利便性向上を図るとともに、法人情報をわかりやすく提供する。
- 2-3 事務局の広報室をニュースリリースの窓口とし、積極的な情報発信を進める。

V その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置

1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置

- 1-1 新たなキャンパス環境整備に関するワーキンググループを立ち上げ、学生生活実態調査等を分析し、充実した学習生活環境の整備案を策定する。
- 1-2 情報メディア基盤の構築に係る検討の中で、学生のICT能力の向上に資する支援の在り方について検討に着手する。
- 1-3 大阪市内に位置する天王寺キャンパスを都市型キャンパスと位置づけ、現職教員や社会人等のリカレント教育の場として機能させる方策の検討に着手する。
- 1-4 キャンパスのユニバーサルデザインに関わる全学的な基本計画の策定に着手する。

1-5 新たなキャンパス環境整備に関するワーキンググループを立ち上げ、機能保全・維持管理計画の見直しを行う。

2 安全管理に関する目標を達成するための措置

1-1 附属学校園及び大学キャンパスの安全に万全を期すとともに、安全なキャンパス環境を維持するための取組を継続的に進める。

1-2 学校安全に関する定期的な点検や見直しを継続的に実施する。

1-3 幼児・児童・生徒を対象に防災訓練等を継続的に実施する。

1-4 非常時の対応のために、学生・教職員を対象に救命講習、防災訓練等を継続的に実施する。

3 法令遵守に関する目標を達成するための措置

1-1 経営協議会において、法定されている審議事項の一層の実質化・活性化が行われるよう運営面に配慮する。

1-2 内部監査の有効性を高めるため監査室の体制の見直しを図るとともに、事業実施部署において実施しているチェック機能を調査・検証する。

1-3 不正経理等による信用失墜のリスクを共通理解させる研修システムの構築をプランニングする。

VI 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画
別紙参照

VII 短期借入金の限度額

1 短期借入金の限度額

16億円

2 想定される理由

運営費交付金の受け入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れることが想定されるため。

VIII 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画はないものとする。

IX 剰余金の使途

決算において剰余金が発生した場合は、

- ・ 教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。

X その他

1 施設・設備に関する計画

(単位：百万円)

施設・設備の内容	予定額	財源
・小規模改修	総額 33	国立大学財務・経営センター 施設費交付金 (33)

(注) 施設・設備の内容、金額については見込みであり、上記のほか、業務の実施状況等を勘案した施設・設備の整備や老朽度合等を勘案した施設・設備の改修等が追加されることもあり得る。

2 人事に関する計画

効率的な大学運営に資する観点から職員配置の年次計画を策定し、平成22年度における業務等を精査し、学内組織の職員数の適正化を推進する。

(参考1) 平成22年度の常勤職員数 695人

(参考2) 平成22年度の人件費総額見込み 6,426百万円(退職手当は除く)

(別紙)

- 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

(別表)

- 学部の学科、研究科の専攻等の名称と学生収容定員、附属学校の収容定員・学級数

(別紙) 予算 (人件費の見積りを含む。), 収支計画及び資金計画

1. 予算

平成22年度 予算

(単位: 百万円)

区 分	金 額
収入	
運営費交付金	6,367
施設整備費補助金	
国立大学財務・経営センター施設費交付金	33
自己収入	2,940
授業料、入学金及び検定料収入	2,864
雑収入	76
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	295
目的積立金取崩	0
計	9,635
支出	
業務費	9,307
教育研究経費	9,307
施設整備費	33
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	295
計	9,635

[人件費の見積り]

期間中総額6,426百万円を支出する(退職手当は除く)。

(うち、総人件費改革に係る削減の対象となる人件費総額5,298百万円。)

「産学連携等研究収入及び寄附金収入等」のうち、前年度よりの繰越額からの使用見込額111百万円。

2. 収支計画

平成22年度 収支計画

(単位：百万円)

区 分	金 額
費用の部	9,186
經常費用	9,186
業務費	8,721
教育研究経費	1,644
受託研究経費等	40
役員人件費	86
教員人件費	5,584
職員人件費	1,367
一般管理費	260
財務費用	4
減価償却費	201
臨時損失	0
収益の部	9,186
經常収益	9,186
運営費交付金収益	6,320
授業料収益	1,823
入学金収益	363
検定料収益	97
受託研究等収益	40
寄附金収益	248
財務収益	9
雑益	85
資産見返運営費交付金等戻入	149
資産見返補助金等戻入	5
資産見返寄附金戻入	47
資産見返物品受贈額戻入	0
臨時利益	0
純利益	0
目的積立金取崩益	0
総利益	0

3. 資金計画

平成22年度 資金計画

(単位：百万円)

区 分	金 額
資金支出	9,635
業務活動による支出	8,967
投資活動による支出	668
財務活動による支出	0
翌年度への繰越金	0
資金収入	9,635
業務活動による収入	9,482
運営費交付金による収入	6,367
授業料・入学金及び検定料による収入	2,864
受託研究等収入	40
寄附金収入	144
その他の収入	67
投資活動による収入	42
施設費による収入	33
その他の収入	9
財務活動による収入	0
前年度よりの繰越金	111

別表（学部の学科，研究科の専攻等）

教育学部（第一部）	幼稚園教員養成課程	60人（うち教員養成に係る分野	60人）
	学校教育教員養成課程	395人（うち教員養成に係る分野	395人）
	小学校教員養成課程	870人（うち教員養成に係る分野	870人）
	中学校教員養成課程	315人（うち教員養成に係る分野	315人）
	特別支援教育教員養成課程	180人（うち教員養成に係る分野	180人）
	養護教諭養成課程	120人（うち教員養成に係る分野	120人）
	教養学科	1,620人	
教育学部（第二部）	小学校教員養成課程	350人（うち教員養成に係る分野	350人）
教育学研究科	学校教育専攻	32人（うち修士課程	32人）
	国語教育専攻	16人（うち修士課程	16人）
	社会科教育専攻	32人（うち修士課程	32人）
	数学教育専攻	16人（うち修士課程	16人）
	理科教育専攻	36人（うち修士課程	36人）
	英語教育専攻	12人（うち修士課程	12人）
	家政教育専攻	12人（うち修士課程	12人）
	音楽教育専攻	24人（うち修士課程	24人）
	美術教育専攻	24人（うち修士課程	24人）
	保健体育専攻	20人（うち修士課程	20人）
	特別支援教育専攻	24人（うち修士課程	24人）
	技術教育専攻	6人（うち修士課程	6人）
	養護教育専攻	6人（うち修士課程	6人）
	実践学校教育専攻	60人（うち修士課程	60人）
	健康科学専攻	42人（うち修士課程	42人）
	総合基礎科学専攻	32人（うち修士課程	32人）
	国際分科専攻	24人（うち修士課程	24人）
	芸術文化専攻	24人（うち修士課程	24人）
特別支援教育特別専攻科	30人		
附属幼稚園	150人	学級数	6
附属天王寺小学校	720人	学級数	18
附属池田小学校	720人	学級数	18
附属平野小学校	720人	学級数	18
附属天王寺中学校	480人	学級数	12
附属池田中学校	480人	学級数	12
附属平野中学校	360人	学級数	9
附属高等学校天王寺校舎	480人	学級数	12
附属高等学校池田校舎	480人	学級数	12
附属高等学校平野校舎	360人	学級数	9
附属特別支援学校	60人	学級数	9（小学部，中学部，高等部各3学級）